防衛省との連携による救援物資の輸送に関する
麻生全国知事会会長記者会見概要

【日　時】　　平成 23 年 3 月 16 日（水）14：00～14：30
【場　所】　　都道府県会館 3 階　知事会会議室
【出席者】　　麻生全国知事会会長（福岡県知事）

（麻生全国知事会会長）

全国知事会の緊急広域災害対策本部はずっと救援活動を続けておりますが、非常に重要な合意が防衛省との間で出来ました。それは、救援物資の輸送につきまして、全面的に自衛隊が担当するということであります。政府の部内におきましては、この点についてはいろいろな議論が行われたようであります。実際の救援物資の輸送が思うように（被災地に）届いていないのではないかということがあり、これを自衛隊が全面的に担当するべきであるという特に菅総理の強い指示がなされたわけであります。その指示に基づきまして、我々と防衛省の間で話し合いを行いました。その結果、救援物資の輸送を自衛隊が担当することになりました。

具体的にどんなやり方をするかといいますと、今、防衛省のほうから各県ごとに一つの駐屯地等を指定してまいりました。各県は、その駐屯地の担当者と連絡を取りまして救援物資を送り込むということになります。今防衛省が考えています輸送手段は、主として空路です。飛行機を使うということであります。一部には船を使うということも考えているようですが、今考えているのは主として空路であるということです。従って必要な物資は、最終的には自衛隊が指定する飛行場に持って行くということになると思います。その場合に送り込む物資につきましては、県が主体となって送り込むという物資に加えまして、市町村で送りたいというところが随分ありますから、それも自衛隊との協力体系に乗せていくということを考えておりまして、各県には、市町村分まで含めて自衛隊が指定する駐屯地等へ持って行く調整をしてもらいたいという指示を出しております。

それから、どこにどの救援物資を持って行くかということが大事なのですが、これにつきましては、まさに知事会の活動目的が需給調整にあるわけですから、その活動は当然してまいります。そして、需給調整の結果として、被災県から出してもらいたい救援物資が、都道府県から出ていくということになろうと思います。ただ、実際の活動においては、求められている物資の需要量と実際に提供できる物資の供給量に、非常に差があります。したがって、今のところ、各都道府県からこれだけのものが出せますというものについてはすぐに出してくれと返事をしている場合が多いというのが実態であります。

今度は、実際に自衛隊はどこに物資を下ろすのかということでありますけれども、空

路でありますから、東北地方を中心としまして、どこかの自衛隊基地に下ろすということになってまいります。それはまだ明確に我々のほうに示されていません。下ろした後どうするかというのが非常に大事ですが、これは、自衛隊の方で必要なところに輸送するということも担当してよろしいという思い切った、踏み込んだ体制を取ろうといたしております。

従って、送り込むのはいいんだけれども、現地へ届かないのではないかということを、我々は非常に心配していましたけれども、自衛隊が思い切って現地の輸送も担当しようということでありますから、自衛隊の現地における分配活動等の調整もしながら我々は需給調整をしていきたいと思います。

２番目でありますが、このような需給調整をしながら救援物資を届けるのですけれども、物資あるいは人材、いろんな要請が来ております。そして、また原発の問題がありまして、原発対応関係の人材が欲しいというような要請も言ってきているということで、これは非常に能力が限定されるのではないかと思っています。このようなことを踏まえて、人材補強を行いました。具体的に言いますと、災害地から一番離れている九州、四国、中国地方の東京事務所職員を２名ずつ出してもらいました。この皆さんもローテーションを組みますので、常に常駐するというわけではありません。具体的には、調整作業を担当してもらうということにいたしました。今日たくさん後方に来ていますけれども、まさに今日から応援に駆けつけてくれている各県の東京事務所の職員の皆さんでございます。以上です。

＜質疑応答＞

（記者）

自衛隊との協定は今日付で結ばれたということでよいのでしょうか。そして、いつから荷物を実際に受けるという作業を始められるのかお願いいたします。

（麻生全国知事会会長）

第１点は、今日未明というような感じです。今日にしておいていいでしょう。事務的な打ち合わせは夕べから進めておりまして、最終的な防衛省側の意思決定がなされたのは今日になっているはずですから、今日でいいと思います。

２番目の、荷物が実際にいつから運び出せる体制になるのかということは、これはまだはっきりしていません。たとえば福岡県の場合には第一陣、第二陣と出しております。そして、第三陣を明日出そうということで、今荷物をまとめているのですが、それを自衛隊の空輸に今切り替えようとしています。切り替える理由は、空輸をした方がいいからです。ずっと陸上を走っていって福島県あたりまで行くといろいろと交通制限があって大変なんです。ですから、空輸したほうがはるかに効果的なのですが、実際に飛行機

が今日出せるのか、明日出せるのかということについては、福岡の場合はまだはっきりしていません。それから、飛行機を出すからには、トラック一台分ではなくて、もっと大きな荷物になると思いますから、福岡県だけの荷物ではなくて、各県の荷物も早急にまとめて出したほうがいいということになると思います。着く時間からいうと、飛行機の方がはるかに早いのです。このようなことも考えなければなりません。

実際にいつ飛行機が飛ぶかということは、まだそれぞれの地域によって違ってくると思いますが、いずれにしましても、今日が無理であれば明日から相当飛ぶというように考えて我々は準備を進めます。

（記者）

これまでは、各都道府県でそれぞれが自前で運ばれていたという理解でよろしいでしょうか。

（麻生全国知事会会長）

はい。各都道府県がトラック協会と協議しトラックで救援物資を送り込むという活動が中心でした。

（記者）

従来のやり方では、かなりロスがあったり諸問題が上げられていたのでしょうか。

（麻生全国知事会会長）

諸問題というか、たとえば我々の場合だったら九州から行きますから、ずっと列島を縦断しないといけないということで長距離を走らなければなりません。要員を２人３人交代しながら輸送するのですが、トラック輸送の場合には原子力発電所問題に引っかかり、随分迂回しないといけないということになっています。ですから、皆さんが送り込もうとした場合に、輸送をどうするかということが課題であったのですが、その輸送を自衛隊が引き受けようということになりましたから、非常に救援物資の輸送がやりやすくなったというように考えています。

（記者）

確認ですが、各県が各々で輸送してきたということをやめるということでしょうか。完全に知事会が調整した上で送るということですか。

（麻生全国知事会会長）

知事会が、是非これだけのものを送ってくれということで調整して出す救援物資とそうではない救援物資があります。たとえば、市町村は、姉妹市町村の間で見繕って出す

ということもありますし、空輸されるものはすべて知事会の調整の枠の中で出されるものとは限りません。それはそれでいいのだと思います。ただそれは、それぞれの市町村がトラックを出してやるよりも、自衛隊のものを使った方が効果的であると思いますから、県の方では、その県内の市町村に対しまして、こういうルートが開かれていますということを連絡し、これを使うということも十分考えるようにということを周知します。使わない市町村もあるかもしれませんが、たぶん使おうということになるのではないのでしょうか。

（記者）
今回、自衛隊に送ってもらう物資の代表的なものというのはどんなものがあるのか。

（麻生全国知事会会長）
食料とか紙おむつ、水など生活必需品が中心の一般の救援物資になると思います。

（記者）
総理から連絡があったということですが。

（麻生全国知事会会長）
総理と話したのは一昨日です。総理の方から連絡がありまして、知事会が救援活動をしてくれているということで非常にありがたいし、地方公共団体も救援活動を思い切ってやっていただきたいということでございましたから、知事会は今何をやっているか説明したところでした。それから、１日くらい経って、事務的に、自衛隊としてもっと大きな役割を果たせという意見が内部にあるし、果たさなければいけないということで検討しているということで、知事会はどんな活動をしているのですかということなのでこちらの活動を説明しました。その後、内部的な話については正確にはわかりませんけれども、北沢防衛大臣と今日昼くらいから話をしたときには、北沢防衛大臣とこういうルールでやるという確認をしたのですが、その際には、防衛大臣は、ここに至るまでにはいろいろな議論があったと思いますが、とにかく非常に強い菅総理の意志があって、自衛隊が前面に出るということになったのだという話でございました。

（記者）
今回は物資の発送ということですが、今後人員の派遣も必要になってくるかと思いますが、それも自衛隊に運んでもらうことになるのでしょうか。

（麻生全国知事会会長）
それはまだわかりません。

（記者）
今日北沢大臣と直接お話になられて細かいことを詰めたのでしょうか。

（麻生全国知事会会長）
細かいことを詰めたのではなくで、そういう協力をしていくという確認をしました。細かいことは、事務的に調整しています。

（記者）
ちなみに、自衛隊が知事会とかと物資を運ぶという前例はないんですよね。

（麻生全国知事会会長）
どうでしょうか。あるのではないかな。これだけの大規模災害ではなくても、県内で起こった災害について自衛隊にいろんな災害出動をお願いします。そういうときに、物資の調達とか運送もお願いするということはあったと思います。ですから、全くないわけじゃないけれども、どちらかというと、各地域の局地的の災害支援活動の中に物資を運ぶということはあったのですけれども、全国的長距離にわたって大規模にやろうというのは、災害の性格からこうならざるを得ないけれども、今回が初めてのことじゃないかと思います。

（記者）
今被災地では自治体だけでなく企業などいろいろなところから救援物資が届いて、それをどこの避難所に送ればよいのかが問題になっているということなのですが、そのあたりの判断は誰がやるのでしょうか。

（麻生全国知事会会長）
それはもうまさに、今回の事態で、一番苦慮する点なのです。今の質問に端的に答えるとするならば、これは被災県だと思っています。被災県が、どこにどれだけの物資が足りないからどこに持って行ってくれということがなければ、我々のほうからどの被災地に持って行けばよいかということを判断する材料がないという状態であります。ただ、現実には、被災県のほうがどこにどれだけ避難者がいて、どういう物が足りないから持って行ってやってくれということを明確に割り当てるというだけの作業ができていません。そのあたりは、被災県と相談しながら今後やっていくと。おおまかにも方向を出していくと。それから自衛隊も、到着した後、どこに持って行くのかということが非常に大きな課題だということを自覚しております。ですから、自衛隊も持って行きますけれども、どこに持って行くかはやはり被災県と相談するということを基本にしながらや

っていく予定であります。

以上